

繁殖を目的としたインドゾウの輸送及び搬入後の経過
～金沢動物園から豊橋動植物公園編～

よこはま動物園 ○藤澤加悦, 佐藤英雄, 飯野雄治, 小川直子, 古田洋

動物園には希少な野生動物を繁殖させて命をつなぐという大切な使命があるが、日本のゾウ飼育 125 年の歴史の中でアジアゾウの繁殖は非常に少なく、このままでは 40～50 年後には日本の動物園からゾウがいなくなる可能性があると推測されている。ゾウの繁殖が難しい理由にはオスの飼育頭数が少なく交尾のチャンスが限られていること、また交尾しても妊娠にまで至ることが少ないことが挙げられる。そのため国内の動物園では、ゾウの繁殖計画を立て、積極的にゾウを移動させて新たなペアを作る試みが行われている。

横浜市内には 3 つの動物園があり、よこはま動物園では 3 頭（オス 1 頭、メス 2 頭）、金沢動物園では 2 頭（オス 1 頭、メス 1 頭）の合計 5 頭のインドゾウを飼育していたが、両園共に繁殖には至らなかった。そこで 2016 年 9 月 20 日によこはま動物園から金沢動物園へメス個体（愛称：チャメリー）を移動し、新たなペアを形成し約 2 年間同居を実施するが、このペアでも繁殖には至らなかった。

次にチャメリーを豊橋総合動植物公園に搬出し、繁殖経験のあるオスとのペア形成を図ることにした。輸送箱は 2016 年に金沢動物園に搬出した際に使用した輸送箱（W2105mm×H3000mm×L5570mm）を使用した。輸送日は 2019 年 3 月 18 日（月）とした。

搬出当日、6：45 に鎮静剤投与を行い、輸送箱への箱入れを開始した。8：45 には輸送箱の前後の扉を閉め、低床トレーラーへの積み込み作業を開始した。金沢動物園を 11：27 に出発、17：15 に豊橋総合動植物公園に到着した。ゾウ舎への搬入は 18：36 無事に完了した。

豊橋総合動植物公園に搬入後、よこはま動物園のゾウ担当が 1 週間残り、飼育方法等の引き継ぎを実施した。3 日程は夜間の横臥睡眠が見られなかったが、徐々に新しい環境に馴れ、展示場馴致も順調に進んだ。また金沢動物園での採血結果より発情開始は 4 月 10 日頃からの予定だったが、3 月 29 日よりオス個体（愛称：ダーナ）にメスの発情によると思われる頻尿等の反応が出た。両園で相談した結果 4 月 1 日よりダーナとチャメリーの同居を実施することとした。

今回は豊橋総合動植物公園への輸送の報告及び搬入後の経過について発表する。